

安寧

兵庫縣姫路護國神社社報
「安寧」第三十四号

発行所 兵庫縣姫路護國神社

〒670-0033 姫路市本町二一八
電話 〇七九一二四〇八九六

安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なこと

英霊の言乃葉

愛児への便り

海軍大尉 植村 真久命

神風特別攻撃隊大和隊
昭和十九年十月二十六日 比島海域にて戦死
昭和三十五年八月 立教大学卒 二十五歳
東京都出身

素子、素子は私の顔をよく見て笑いましたよ。私の腕の中で眠りもしたし、またお風呂に入ったこともありました。素子が大きくなつて私のことが知りたい時は、お前のお母さん、佳代伯母様に私の事をよくお聴きなさい。

私の写真帳もお前の為に家に残してあります。素子といふ名前は私がつけたのです。素直な、心の優しい、思ひやりの深い人になるやうにと思つて、お父様が考へたのです。

私は、お前が大きくなつて、立派な花嫁さんになつて、仕合せになつたのを見届けたいのですが、若しお前が私を見知らぬまゝ、死んでしまつても、決して悲しんではなりません。

お前が大きくなつて、父に會ひたい時は九段へいらつしやい。そして心に深く念ずれば、必ずお父様のお顔がお前の心の中に浮びますよ。父はお前は幸福ものと思ひます。生まれながらにして父に生きうつしだし、他の人々も素子ちゃんを見ると真久さんに会つてゐる様な気がするとよく申されてゐた。またお前の伯父様、伯母様は、お前を唯一つの希望にしてお前を可愛がつて下さるし、お母さんも亦、御自分の全生涯をかけて只々素子の幸福をのみ念じて生き抜いて下さるのです。必ず私に万一のことがあつても親なし兒などと思つてはなりません。父は常に素子の身辺を護つて居ります。優しくて人に可愛がられる人になつて下さい。

お前が大きくなつて私の事を考へ始めた時に、この便りを讀んで貰ひなさい。

父

昭和十九年〇月吉日
植村素子へ

追伸、素子が生まれた時おもちやにしてゐた人形は、お父さんが頂いて自分の飛行機にお守りにして居ります。だから素子はお父さんと一緒にゐるわけです。素子が知らずにゐると困りますから教へて上げます。

本年 八月十五日に建立された特攻勇士の像

【昭和三十五年八月〜十月靖國神社頭掲示】



姫路市民合唱団



参進の儀

春季例大祭 高清水有子氏講演会

五月二日 午後一時

五月二日、春季例大祭が厳肅に滞りなく斎行されました。

当日の朝は小雨が降っていましたが、祭典が始まる十時三十分には雨も上がり晴れ間がのぞいていました。祭典終了後、泉宮司は挨拶で『今年は終戦八十年の大事な年である』ことをお話しされました。

令和七年は色々な事業や催しが行われます。崇敬奉賛会では、四回の特別講演会を行う予定でその第一回が、五月二日の午後より皇室評論家の高清水有子さんをお招きして行われました。

演題は「皇室の祈り 終戦八十年来迎えて」でした。

講演内で高清水さんは『開戦の詔書』を全文紹介され、日本が戦争に突入していくにあたり、どのような経緯で、そしてやむにやまれず開戦に至ったことや昭和大帝をはじめ先人達の苦悩がこの詔書から読み取れると解説されました。

『終戦の詔書』は有名ですが『開戦の詔書』を知る人は少ないです。

当神社では、

総代会長である

三木英一が公式

YouTubeチャンネルで『開戦の詔書』

と『終戦の詔書』

の解説を行っています。この機会に是非ご覧下さい。当神社ホームページ下側にある「昭和の詔書解説三部作」から視聴できます。



高清水有子氏による講演

(文責 奉賛会常任理事 前川英昭)

崇敬奉賛会総会 開催

四月十五日 午前十時

崇敬奉賛会令和七年度の役員総会は四月十五日午前十時より月次祭に参列ののち参集殿で開催された。令和六年度決算、令和七年度決算予算に加えて終戦八十事業等の審議を行い全会一致で議決された。本年は、終戦八十年来にあたり、三宅会長から記念事業への協力を仰ぐ挨拶があった。会議のあ



崇敬奉賛会 総会

令和7年度予算

(収入の部) 令和7年4月1日～令和8年3月31日 (単位 円)

予算項目	予算	内 容
繰越金	2,578,632	
会費収入	2,840,000	
雑収入	381,168	新年祈願祭参加費他
受取利息	200	決算利息
収入合計	5,800,000	

(支出の部)

支出項目	予算	内 容
神社奉納金	300,000	神社へ奉納
事業費	2,350,000	社報発行・英霊感謝祭・新年祈願祭・終戦80年事業経費等
事務費	100,000	崇敬奉賛会運営事務費
会議費	500,000	総会・監査会・運営委員会
雑費	75,000	振替手数料、残高証明書、IB基本料
予備費	125,000	
事業積立金	100,000	
次年度へ繰越金	2,250,000	
支出合計	5,800,000	

令和6年度決算報告

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

(収入の部) 令和6年4月1日～令和7年3月31日 (単位 円)

予算項目	決算額	内 容
繰越金	2,796,328	
会費収入	2,196,000	法人個人終身会員賛助会員
雑収入	384,000	新年祈願祭会費等
受取利息	210	決算利息
収入合計	5,376,538	

(支出の部)

支出項目	決算額	内 容
神社奉納金	200,000	神社へ奉納
事業費	1,953,754	社報発行・英霊感謝祭・新年祈願祭・こども寺子屋・歴史塾・80周年事業支出
事務費	100,000	崇敬奉賛会運営事務費
会議費	384,288	総会・監査会・運営委員会10回
雑費	59,864	振替手数料、残高証明書、IB基本料
予備費	0	
事業積立金	100,000	
次年度へ繰越金	2,578,632	
支出合計	5,376,538	

と直会に移り、和氣満々の中、本年の事業完遂を誓い合った。

護國神社歴史塾 好評のうちに終了



講義の様子

昭和三十一年生まれで「全国護國神社ガイドブック」「まんが 護國神社へ行こう」の著作者で護國神社研究家の山中浩市氏による歴史塾は二月から七月まで六回にわたって行われた。

日清戦争から大東亜戦争に至るまでの過程を、戦争の因や結果を図解で表しながら、熱意を込めて、丁寧に講義された。教科書では学べない内容で、大変、好評で毎回五十名前後の参加者があり最終日には皆勤賞の授与式や懇親会も開かれた。来年度も実施を予定している。



修了書授与



山中浩市先生による講義

こども寺子屋を毎月開催

二月を第一回として現在九月で八回開催した。参加されたのは三歳くらいから十五歳で幼児にはご両親も一緒に学んでいる。いずれも土曜日午後三時からの開催で、まず神社の境内を散策しながら御参りして、会館に場所を移し、いけばなや、茶道、礼儀作法のほか、御琴を演奏したり、ピアノに合せて歌ったりしながら、自然と日本の文化を学んでもらっている。子供たちは、境内の花を摘んで



茶道体験

手作りの花器に自分流で生けたり、茶菓子を食べたり、互にお点前を学んでお抹茶をおいしそうに召し上がっていた。今後十一月を除いて来年も毎月続けられる予定。



生花の花器づくり



生花体験

ジェイソン・モーガン氏講演 八月十一日午後二時

一、講演会の要旨

ジェイソン・モーガン氏 「アメリカ人が見た大東亜戦争」

ジェイソン・モーガン氏は、米国南部出身の視点から大東亜戦争を再評価し、それを「アジア解放の戦い」と位置づけた。米国は戦後一貫して日本に「太平洋戦争」という呼称を押し付け、植民地主義や白人至上主義の歴史を隠蔽してきたと批判。特攻隊や玄洋社ら先人は日本のためだけでなく全人類のために戦ったとし、米



講演の様子

軍基地や日米合同委員会の存在は占領の継続であると指摘。戦後の日本がワシントン（米国支配層）によって歪められた状況下であり、その支配が今なお続いていると指摘した。現代の

ウクライナ戦争や台湾有事も米国の利権維持の道具であり、日本は再び大アジア主義の精神を取り戻し、米国従属から脱しなければならぬと訴えた。

●ワシントン帝国への抵抗としての特攻隊

戦時中の特攻隊の精神を「ワシントン帝国への抵抗」として称賛し、関行男大尉の行動を「立派な兵士の最もな答え」と評価した。その上で、現代の政治家が米国に屈従し、トランプ元大統領の「Make America Great Again」の帽子をかぶらされるような姿は、かつての武士の魂とはかけ離れていると厳しく批判した。

●アメリカによるジェノサイドと南部の共感

モーガン氏は、アメリカが日本人に対して行ったのは「ジェノサイド」であると断じ、自身が属する米国南部人も同じくワシントンとの戦争で敗れ、今もその支配下にある「仲間」だと語った。靖國神社の英霊に対し、ワシントンの支配から日本を解放できていないことを「申し訳ない」と感じる心境を吐露した。

●日本の自立への呼びかけ

玄洋社や黒龍会に代表される大陸浪人の精神を「ヒーロー」として称え、彼らが日本のためだけでなく全人類のために行動したと述べた。結論として、日本は特攻隊や大陸浪人が持っていた「武士の魂」を取り戻し、ワシントンの支配と情報戦から脱却して自立すべき

だと力強く訴えた。

二、質疑応答

後半の対談では、崇敬奉賛会の深田真史氏を司会に迎え、講演の内容をさらに掘り下げた。深田真史氏は、崇敬奉賛会の活動紹介と、自身の慰霊・顕彰活動の経歴を述べ、今も「大東亜戦争」や「英霊」という語が公的場で使用制限されている現状を批判。八十年の節目は過去の回顧だけでなく今後の国家像を問う時期だと述べた。原爆投下の正当化に関する米国世論調査（若年層ほど否定的）を紹介し、モーガン氏に見解を求めた。モーガン氏は、無条件降伏要求は日本拒否を前提としたもので、原爆投下は戦争終結のためではなく科学実験とジェノサイドだったと主張。若い世代が懐疑的なのは近年の米政府の不正や情報統制への不信感が背景にあると述べた。

●戦後レジームと原爆投下の欺瞞

深田氏は、現在も「大東亜戦争」や「特攻」という言葉がメディアでタブー視される現状に触れ、戦後レジームの問題を提起した。これに対しモーガン氏は、米国の原爆投下は「無条件降伏」という非現実的な要求を口実にしたものであり、正当化できないと断罪。アメリカの若い世代がそれに気づき始めているのは、ワシントンの本質が見えてきたからだとして

分析した。

●日本の政治家への痛烈な批判

モーガン氏は日本の自民党を「アメリカンパワーの受け皿であり、CIAが育てた組織」と痛烈に批判。保守とされる政治家でさえ、LGBT法案を可決させるなど、結局はアメリカの意向に従っていると指摘した。国民が選挙で「NO」を突きつけても政権が続くのは、日本の政治がアメリカの命令で動いているからだと断じた。

●日米同盟と日本の進むべき道

日米同盟について、モーガン氏は「日本の自衛隊は物理的に強いが、精神的に米国に依存させられている」と分析。日本は自信を取り戻し、歴史から学んで自立すべきであり、「日本人ならできる」と聴衆を鼓舞した。中国の脅威に対しても、歴史を振り返れば日本は対処できるはずだと主張し、安易な米国依存に警鐘を鳴らした。

（文責 運営委員 尼子尚公）



正式参拝



満席の会場

崇敬奉賛会

終戦八十年

英霊感謝祭ならびに
英霊顕彰の集い

晴天に恵まれた八月十五日、兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会、英霊感謝祭ならびに英霊顕彰の集いが開催された。今年は終戦から八十年を迎えることもあり、境内に特攻勇士の像が公益財団法人特攻隊戦没者慰霊顕彰会のお世話で奉納され、その奉告祭と除幕式も併せて行われた。午前十時に本殿において、泉宮司以下神職の手により厳かに祭祀が執り行われた後、境内南東に設置された特攻勇士の像の前で除幕式を行った。白布で覆われた特攻勇士の像から垂らされた三本のロープを関係者が握り、掛け声と共に引くと精悍な特攻勇士の姿が現れ、参列者から歓声と拍手が沸き起こった。続いて元「少年自衛官」の方々の先達で「同



境内に参列する人々



みたまなごめの舞



神社庁姫路支部による奉仕

英霊顕彰の集いの最後の演目は、日本を唄うと題して「兵隊さんよありがとう」「愛国行進曲」「海ゆかば」の三曲をピアノとバイオリンの

題した解説が行われた。

期の桜」と「若鷺の歌」の合唱と高校生の戦大翔君によるラッパの奉奏が行われ、その歌声と音色が境内に響いた。

正午が近づくと、本殿前に参拝者が集まり、東京九段の国技館にて開催されている全国戦没者追悼式のラジオ放送に合わせ、黙祷を捧げるとともに天皇陛下のお言葉を拝聴し、戦没者を偲んだ。

昼休憩には、霊友会の皆さんの手でかき氷やいなりずしが販売され、午後から会場を参集殿へと移し、崇敬奉賛会員による電子紙芝居「お父さんの千羽鶴」の上映、「英霊の言乃葉」の朗読、泉禰宜によるフィリピンにある特攻慰霊碑についての解説があった。そして、崇敬奉賛会有志による朗読劇「只今より突入―義烈空挺隊」が上演され、前川英昭氏による「義烈空挺隊と熊本県」と



英霊の言乃葉の朗読



元「少年自衛官」による軍歌歌唱



除幕式

音色に合わせて、全員で合唱し、閉会となった。

例年通り、崇敬奉賛会々員をはじめ、諸団体のご協力、お手伝いをいただいた。戦後八十年を迎えて、戦争体験者の多くが鬼籍に入られ、ご遺族の高齢化も激しく、英霊顕彰事業も困難が予想されるが、今年も若い世代の参加者がおられたことで、次の世代に英霊顕彰の思いを引き継いでいくことが崇敬奉賛会の役目であると心に刻み、これからも皆さんの協力を得て、志を広めていきたいと思う。

(文責 奉賛会理事 戸井田 真太郎)



特攻勇士の像

シリーズ 英霊の戦場 (三五)

終戦後も戦い続けた日本軍

(満州)

■はじめに

大東亜戦争終戦から八十年目の節目に当たりますが、昭和二十三年歌詞の内容を聞かされた子供まで唄っていた歌に「異国の丘」がある。シベリアに抑留され厳しい環境の中で重労働を強制された兵士の無事早期帰還を家族は元より全国民が祈り、又兵士達は帰国するまでお互い励まし合った歌であった。終戦前日、日本政府はポツダム宣言を受諾し、八月十五日終戦するとの回答に米英中国は了解して一切の戦闘行動を停止したが、ソ連だけは「無条件降伏」なのに「国体護持」の条件が付いている、と降伏を認めなかった。そこで終戦後も満州や南樺太・千島列島で戦闘が続いた。武装解除した日本軍兵士は国際法を無視して約六十万人が帰国の目的が無い状態で大半が極寒の地に抑留された。今回は終戦後も満州で侵攻を続けるソ連軍を阻止しようとした戦いについて記述する。

■満州国とは(地図参照)

まず、満州について簡単に説明する。地名は一六三六年清の第二代皇帝太宗が国号を後金から清に変名時、女真族族長の尊称「満住」から、清の勢力の拡大に伴い満州地域も広がり、欧州にはマンチュリアとして紹介され、それが江戸時代日本に伝わり通称「満州」となる。

日露戦争後の講和条約で日本は南満州への進出が認められた。この条約で米国の満州進出希望が妨げられた為、日米の対立が表面化した。

一九三一年九月日本軍は中国東北部の軍閥首領の張作霖氏を爆殺(英国諜報部はソ連の仕業としている)した。子の張学良が国民政府に帰属し、抗日戦の影響が拡大しつつあった。当時日本は経済再建に邁進していたが世界大恐慌が重なり農村の窮乏は深刻であった。政府は「満蒙(満州と蒙古)は日本の生命線」と断言し事変不拡大としたが、柳条溝事件(満州鉄道爆破)を機に日本軍は武力で満州国土の拡大を図り山海関まで占領した。(この万里の長城西端の山海関から東側を関東と称したのでその地域に所在する日本軍を関東軍と呼称した)「五族(漢・満州・朝鮮・蒙古・日本)協和」「王道楽土」をスローガンとし、清朝の薄儀氏を執政として一九三二年三月満州国を建国した。然し国際連盟では承認は六ヶ国に留まり建国は否決され日本は同盟を脱退した。

満州国建設時の国土面積は約百三十万平方^キ。(現日本は三十八万七千平方^キなので日本国の三倍以上)人口は約四三〇〇万人で大半が漢族、邦人約一四九万人(軍人含めて約二百万人)であった。

■大東亜戦争開始前の日ソに関連した国際条約

十四年八月 独は英仏戦優先で独ソ不可侵条約締結

九月 独逸・英仏に宣戦布告 W.W.II勃発

十五年九月 日独伊三国同盟 日本は対米戦預期

十六年四月 日ソ中立条約締結(有効期限五年・昭和二十一年三月まで)

同六月二十二日 独逸・独ソ不可侵条約破棄

独ソ開戦

同七月二十九日 日本・仏国承認後南部仏印に進駐

米国政府 対日制裁を強化

■大東亜戦争開始後のソ連の現実主義行動

二十年二月 ヤルタ会談でソ連の対日参戦決定
四月 五日 ソ連・日ソ中立条約不延長を通告

五月 二日 ドイツ無条件降伏
七月十七日 ポツダム会談 対日戦後処理
同二十六日 対日ポツダム宣言発表 日本拒否
八月 八日 ソ連・対日宣戦布告 同日開戦
同 十四日 日本ポツダム宣言受諾
同 十五日 終戦 米英中了承 ソ連は拒否

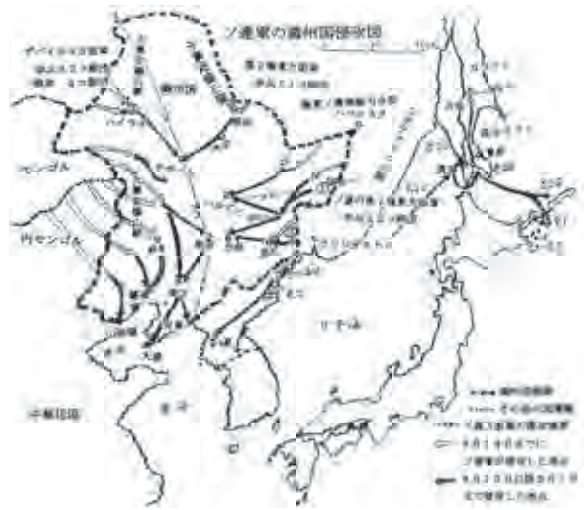
■日ソ開戦時(昭和二十年八月)の両軍兵力
侵攻するソ連軍

狙撃師団七〇箇、狙撃旅団四箇 機械化師団二箇
戦車師団二箇、戦車機械化旅団四〇箇等
兵員一七四万、火炮類二万六千、戦車・自走砲五五〇両、航空機三四〇〇機、海軍艦艇四二七隻
ドイツ降伏後、米国大統領の再三の対日戦要請に百万余将兵の極東への移動は軍需物資の輸送だけでも三ヶ月掛かるとして、九月頃宣戦布告と予定していたが広島島の原爆で日本の降伏が早まる可能性から八月初旬に宣戦布告(八月八日)を決定。

因みに、ソ連は対独戦では二百箇師団兵員六百万人を動員して撃退した。(尚、W.W.IIでの両国の軍民損失、ドイツ約七百万人、ソ連約二千二百万人)

■日本軍(関東軍)

昭和十七年時は支那事変で二〇箇師団が参加中、満州には精強な一六箇師団、兵員六五万人であったが南方戦線が苦戦する中、精強八箇師団と航空隊・野砲連隊が逐次抽出され、ソ連軍と対等に戦える師団は八箇残り一六箇師団と九箇旅団は十分な武器弾薬も無く兵士の戦闘能力も不十分であった。兵員約七〇万(昭和二十年七月在満邦人の防衛招集者二五万人含む)、火炮一八八〇門・戦車等約五〇〇両・航空機は練習機含んで二三〇機等圧倒的に少なく、国境の要塞陣地構築が優先され訓練も不十分で、敵戦車に体当たりの特攻訓練が主体であった。



■ソ満国境地帯で激戦を展開した虎頭陣地
(地図①)

陣地を構築して守備にしていた部隊は第四国境守備隊第三地区隊で四月に急遽編成された臨時守備隊八百名、指揮官は西脇武大佐で陣地構築や戦闘訓練に忙殺されていた。七月に体力・気力のある在日邦人六百名が招集増員され約一四〇〇名の兵員で編成され、歩兵四箇中隊・速射砲・歩兵砲各一箇中隊、砲兵は火砲の異なる中隊二箇、工兵一箇隊、別に陸軍病院は軍医少佐以下約四〇〇名、他の部隊からの分遣者・連絡者約五〇〇名、尚、虎頭街の在留邦人婦女子約五百名はソ連軍来襲時には陣地に収容して庇護する計画であった。陣地は厚いコンクリートで覆われ地下トンネルで連結された強固な作りで、兵器の操作・戦闘能力の向上に邁進していた。八月七日対岸のソ連国境でソ連軍の活動が活発化している状況が確認されていたが、西脇大佐は一抹の不安を抱きながら陣地から約

五〇キロ離れたエキ河の第五軍司令部の部隊長会同に参集した。九日対ソ戦開始を知るや陣地復帰を試みるが陣地は守備隊の十倍以上のソ連軍(狙撃師団二箇、戦車旅団一箇他)に厚く包囲されていて、遂に復帰出来なかった。砲兵隊長大木大尉が守備隊長代理として全般指揮に忙殺された為、組織的な戦闘が十分に出来なかったが、野砲を敵の砲爆撃から護りつつ執拗に射撃を続けて敵を引き付け続けた。遂に敵はガソリンを要塞の穴から流入して焼死又は酸欠で守備隊を全滅させる作戦に出たが生き残った隊員は主として夜間の斬り込み及び肉薄攻撃を反復敢行し、一兵になっても抗戦する気概を続けた。在留邦人含めて一九〇〇名の内、弾薬・食料が尽き抗戦不可と二十六日までに脱出出来た兵員は、守備本部無し・歩兵部隊二八名・砲兵部隊二四名・その他四名、在留邦人の内守備隊本部陣地に庇護されていた約三〇〇名は二名を除き全員戦死した。別陣地に収納されていた約一五〇名は奇跡的に攻撃を免れ、二十九日陣地から西南の離れた清和駅に辿り着いた所でソ連軍に見つかり無差別攻撃を受けて多くの方が戦死した。停戦を知らせる日本軍参謀が陣地内を調査して、全員戦死したとソ連軍に報告したので、脱出に成功し内地に帰還出来たのは兵士五六名、在留邦人約八〇名であった。

■その他、終戦後抗戦した国境陣地 ハイラル陣地(地図②)

五陣地に分かれて守備、八月九日夜半戦車と激しい砲撃を受け、更に十一日には熾烈な攻撃を受け国境警察隊の家族は集団自決をする悲惨な事態が発生した。十五日の終戦放送を確認したが戦闘を継続し、十八日旅団長の判断で自発的に停戦に応じた。

■五家子・東寧陣地(地図③)

五家子陣地は第百二十七師団歩兵第二百八十連隊が守備中、八月八日夜半ソ連軍重砲の集中射撃を受け無

線機が破壊され、爾後、孤立して戦闘を続けて八月十九日まで抗戦、戦死三〇名、行方不明約百名。東寧陣地は独立混成第三百三十二旅団独立歩兵第七百八十三大隊が守備、八日開戦早々野砲部隊が大損害を受けたが爾後、歩砲協力により戦闘を継続した。ソ軍の要請と、日本側の停戦勧告により八月二十六日武装解除した。



強制収容所の重労働と栄養失調で疲労困憊になって休む日本兵捕虜たち

■シベリア抑留将兵の苦難に感謝を

終戦後日本政府はソ連軍と速やかに停戦交渉し、武装解除して投降すべしとの方針であったが、多くの将兵は投降後帰国の準備中、ソ連は「帰国させてやる」と信頼させシベリアへ移送した。現地で亡くなられた方約五万五千人は「英霊」として護國神社にお祀りされています。お参りされた方はこの方達の想いにも心を寄せて頂きたい。

参考文献

防衛省戦史叢書 関東軍(2) 対ソ戦
防衛省戦史叢書 北東方面陸軍作戦

(文責 崇敬奉賛会理事 曾田孝一郎)

終戦八十年

臨時大祭

大東亜戦争終結八十年臨時奉幣祭

英霊の残された言葉には、
家族を、郷土を、そして
この日本を守ろうとする
覚悟があふれています。
護國神社の祭祀の意味は、
国難に殉じた人たちを、
うやまい感謝することであり、
命を懸けて国家を守られた先人に
報いる生き方とはなにかを、
常に考えることでもあります。

令和七年十一月二日

祭典斎行 午前十時三十分

兵庫縣姫路護國神社境内

特別記念講演

姫路市市民会館 午後一時

靖國神社宮司 大塚海夫氏

兵庫縣姫路護國神社